

# 第1・2回

## 既存 UD 出前講座を知ろう・学ぼう・アイデア出そう

### (1) プログラム

日 時 | 6月26日(土) 10:00 ~ 12:00

会 場 | 江東区文化センター 6階 第1・2・3会議室

内 容 | オリエンテーションと既存 UD 出前講座の実演

- ・今年度の主旨と取り組みを説明しました。
- ・実際に小学校で取り組んでいる「UD 出前講座」を実演してもらい、講座を受けての感想やアイデアを出しあいました。

タイムテーブル |

10:00 (10分) あいさつ

10:10 (20分) 今年度の進め方、これまでの取り組み

10:30 (90分) 【UD 出前講座の実演】

出演 相談員のみなさま

12:00 (60分) ~昼 食~

13:00 (60分) 【グループワーク 1】

UD 出前講座の補足、進め方の説明

Q UD 出前講座を見て、感じたことや質問

Q UD 出前講座で子どもの反応で印象に残っていること など

・25分×2回

・2回目はできるだけバラバラになるように移動。

・移動後、どんな話が出たかを簡単に報告して意見交換。

14:00 (10分) ~休 憩~

14:10 (30分) 発表 (発表3分+質疑応答2分×6G = 30分)

14:40 (30分) 【グループワーク 2】

Q こうしたらいいなと思うアイデア

・2回目のグループで意見交換。

15:10 (45分) 発表 (発表3分×6G + 全体で意見交換)

15:55 (05分) 事務連絡、アンケート記入

16:00 終了

## (2) UD 出前講座の実演

江東区相談員により、小学校4年生を対象に実際に行っているUD出前講座を実演してもらいました。子どもが授業を受ける時とできるだけ同じ会場設営や状況を設定しました。

### UD 出前講座の様子



あいさつ



クイズ この人は耳が聞こえる人でしょうか？



耳が聞こえない人のお話



交差点で助けになっているものを考える



歩車間の段差は、困る人と助かる人がいる



クイズ 見て（本来は触って）あてよう



触ってわかることがある



エレベータは誰が使うといいかな？

UD 出前講座を受講後、以下の資料を配付しました。

### 江東区 UD 出前講座 (95 分) プログラム概要

- 5分 あいさつ
- 28分 **シーン1 歩道と自転車（聴覚障害者のお話）**  
(8分) ●クイズ この人は耳が聞こえる人でしょうか？  
聞こえない人でしょうか？  
(8分) ●お話 後ろから自転車が近づいても、聴覚障害者は気づかない、  
高齢者やベビーカーもすぐには避けられないこともある  
(12分) ●体験 コミュニケーションゲーム
- 28分 **シーン2 交差点（視覚障害者のお話）**  
(3分) ●お話 交差点で助けになっているものを考える  
(8分) 点字ブロック、白杖  
(3分) 段差（困る人と助かる人がいる）  
(1分) ●誘導 視覚障害者の誘導方法を伝える  
(3分) ●体験 触ってあてよう！（説明移動）  
(3分) (体験)  
(7分) ●まとめ
- 3分 休憩
- 24分 **シーン3 エレベーター、エスカレーター、階段（車いすなど）**  
(4分) ●お話 様々な立場の人の役になり、どれを使ったらよいかを検討。  
カード配布  
(4分) ●ディスカッション  
(4分) ●発表  
(12分) ●考察
- 7分 全体のまとめ

### ここ数年の UD 出前講座の実施状況（江東区内小学校対象）

実施年	実施回数
平成 28 (2016) 年度	19 校
平成 29 (2017) 年度	23 校
平成 30 (2018) 年度	25 校
令和 元 (2019) 年度	30 校
令和 2 (2020) 年度	20 校

### (3) 既存 UD 出前講座を受けての感想 (○付数字はグループ番号)

#### 全体の感想

##### ●完成されている

- ・飽きのこない完成されたプログラム。江東区民としてこの取り組みがあることに感動。④
- ・出前授業プログラムはとても完成度が高い。②
- ・UD という難しい内容を、クイズ等を交えて説明し小学生でもわかりやすい。④

##### ●面白かった

- ・笑いありで、コントみたいで面白く学べる。皆役者で、聞いていて楽しい。①
- ・意外と時間が短くてあっという間だった。①

##### ●大人の反応

- ・大人の参加者が驚いたりするのは、児童と同じ反応だと感じた。④
- ・大人の方が反応が少ない事に驚いた。全体に元気が足りない。⑤

##### ●学びがあった

- ・ワークショップにかかわることで何気なく日常を点検できるようになった。①
- ・手話を覚えられた。①
- ・知らない事が多く勉強になった。相手の立場に立って考える事も必要だと思った。③
- ・道路工事を行う部署のため、UD についてより理解を深め工事に反映したい。③

→この UD 出前講座は区職員にも知ってもらいたい。ある課で行う合理的配慮が他課ではできていないことがあり課により違うと戸惑う。区役所として何ができて何ができていないか整理し、UD ノウハウを全庁で共有する仕組みがあるとスパイラルアップにつながる。(全体)

##### ●対象や人数

- ・なぜ4年生向けなのか？5・6年生、中学生・高校生。大人向けはないのか？③
- 4年生限定ではなく、4年生以上。他者へ関心を持つのが4年生頃(10歳)からのため。かつては4年生で点字を習うので、総合学習で障害者の生活を知る機会を設ける学校が多く、授業との関係もあった。(全体)
- ・聴覚障害のある私が4年生の時は普通学級で同級生に発話の仕方を教えてもらっていた頃。その年代の子どもは純粋な気持ちで私に接していたので、4年生がこの授業を学ぶのは意義が

ある。授業で学んだことを「障害のある人をじろじろ見ちゃダメ」など先入観を持ってしまう周囲の大人にぜひ教えてほしい。④

- ・どれくらいの人数を対象に実施？④
- 児童数などにより2回に分けて実施。少人数の方が伝えやすい。学校によって児童の反応に違いがある。(全体)

##### ●ICT等の活用

- ・今の子どもたちの感性に合っているのだろうか？ICTも普及している、子どもたちの感想を聞いてみたい。④
- 若い聴覚障害者がUD出前講座に参加した時、日常スマホやタブレットを使ってコミュニケーションをしているのでそのことを紹介する提案があったが、子どもたちに携帯電話の話題は適当でないと話し合い、紹介しなかったことがある。しかし本日も「UDトーク」を使っており、ICT活用のコミュニケーションも受け入れられるようになった。UD出前講座もスタートして10年経ちアップデートできる機会。(全体)

#### シーン1の感想と提案

##### ●見ただ目でわからない

- ・聴覚障害者の素晴らしい観察力に感動。そのような方々が参加されているかな？⑥
- ・聞こえない人を当てるクイズでは、ぼうとした感じだと聞こえないと思われる。⑥
- ・聴覚障害者の外出は、思った以上苦労していることが分かった。③
- ・見ただ目でわからない人がいることは、子どもにも伝わる印象。しかし、高齢者を連想するよう「生まれつき聞こえない人がいる」ことは想像しにくいようだ。②
- ・見ただ目でわからない人にどうやって手助けすればいいのか、と思った。②
- ・「聞こえません」を示す耳マークをつけてはどうか。②
- ・障害を(ヘルプマークなどで)視覚化した方が良いのかどうかは人の考え方による。②

- マークは抵抗ある人もいる。私は「耳が聞こえません」ジェスチャーで伝える。②
- ・外見だと気がつかず、耳の聞こえない人だと聞いて驚いた。外見では分からないことがあるため、意識することが重要。⑤
- 耳が聞こえる人ではないかと思われたことに驚いた（聴覚障害者本人）。⑤

### ●音が聞こえない体験

- ・音が聞こえない体験を入れてはどうか（例、テレビの音声をオフにしてどれくらい正確な情報が取れるか）。②

### ●コミュニケーションゲーム

- ・手話ができなくてもコミュニケーションとれるんだ！がわかる体験はいい。②⑥
- ・聞こえない人との対応が5つ提示されたのは良かった。⑥
- ・聞こえない方とのコミュニケーションは、手話と筆談しか思いつかなかった。③
- ・NHKのジェスチャーゲームのリバイバルをやるべき。⑥
- ・空書きと口話、どちらが大切か？
- どちらも大切（どちらも長くなるとわかりにくい）。②
- ・UDトークよりも手話の方が理解しやすい耳の聞こえない人もいる。⑤
- ・UDトークがもっと広がるといい。様々なICT系の道具も提案したらどうか。⑥
- ・自動言語入力をもっと体験したい。⑥
- ・空文字やジェスチャーのゲームは楽しく理解でき、実際にできそうと思った。③
- ・コミュニケーションゲームの際、子どもを参加させる方法は？⑤
- その場で3人子どもを選ぶことが多いが、事前に先生と話し合い決める場合もある。⑤

### ●口話について

- ・口話の大切さをもう少し伝えてもいいか。②
- ・口話がやっぱり欲しかった。コロナでしようがないが、同じ聞こえない人でも、口話を使っている人を強調してもいいかも。⑥
- ・マスク着用時の不自由さが聞きたい（まだ今後もマスクの着用は続きそう）。①
- ・口話について、マスクはこれからも無くならないと思う。どうやるのか？③

- コロナ対策で口話がしにくい。フェースガードをしてみせることもある。（全体）
- ・口話がコロナで出来ない場合は、動画を活用や透明マスクで行ってはどうか？⑥
- ・口話とマスクの話しを聞き、窓口対応時に聴覚障害者への対応に反映させたい。③
- コロナ禍で口話の紹介ができないなど制約がありもどかしい。これをきっかけにUD出前講座も新しい展開を期待したい。（全体）
- ・口話のビデオはなぜ実施されなかったか？（児童はタブレットを持っている）。⑤
- 学校との調整準備が必要、また時間制限の関係もあり実現に至っていない。しかし、全生徒にパソコンが配布されたということで検討の余地はある。（全体）

## シーン2の感想と提案

### ●学びがあった

- ・視覚障害者は、いろいろ工夫をしていることが分かった。③
- ・白杖の白い部分が、周囲に向けての意味になっていたことを知った。（法律で白杖の仕様や視覚障害者が持つことが決められている）。③

### ●段差が助けになる、立場による違いを知った

- ・視覚障害者にとって段差は重要と初めて知った。この重要性を実演して欲しい。③
- ・視覚障害者にとって段差が助けになり、高さが決まっている意味がよく分かった。⑤
- ・歩車間の段差について、両者を考え2cmにしていることに興味を感じ驚いた。③
- ・段差が2cmなことを初めて知った。④
- ・段差について車いす使用者と視覚障害者のやり取りが印象的だった。③
- ・車いす vs 視覚障害者対決は面白い。視覚障害者の段差の使い方を実演や動画で見せては。⑥
- ・車いす使用者と視覚障害者のやりとりは、大人には面白いが子どもの反応は？①
- 小学生の反応も良いときいた。①
- ・段差が2cm以上になると、車いすで上がれないこともある。③
- ・2cmの段差の他にも、お互いの歩み寄りが必要なものがありそう。①③

→例：アプリ等による情報保障があっても、アプリそのものを使えない（操作できない・購入できない等）場合、使用有無により格差が生まれる。（全体）

・普段意識しないポイント（音響信号、2cm 歩車間段差等）を改めて確認したい。ここで勉強するまで信号は青赤黄のみの理解で、他を意識せずに通過ぎていた。⑥

### ●体験が良い

- ・座学だけではなく体験を増やして欲しい。③
- 白杖体験はやらない。視覚障害者も訓練して白杖を使えるようになるので、健常者がアイマスク体験をしても怖かったり危険な場合もある。体験は何を伝えるのが重要、体験ありきではない。デモンストレーション（実演）と体験の整理は必要。（全体）
- 障害者が健常者体験をできないのは、不公平な気がする。（全体）
- ・体験「触って当てよう」とはどんなものか？  
→ボックスに穴が2つあり両手を入れる。中のものを手で触って当てるゲーム。⑤
- ・（牛乳パックなど）実物使用は良い。①
- ・牛乳パックの切りかきを初めて知った。⑥
- アレルギー対応として、牛乳パックではなくシャンプーとリンスに変更するなど、事前に小学校と打合せをしながら進めている。（全体）
- コロナ禍でさわって当てることのできないなどはもどかしい。これをきっかけに、UD 出前講座も新しく展開することに期待したい。（全体）
- ・UD 製品を持ってきてもらうなど、子どもの発想、子どもとのやり取りを活かしたい。④
- ・UD 商品は視覚障害者だけでなく様々な人に便利な事に気づいてもらえた。⑤
- ・交差点の音や、交差点での縦方向横方向の違いなど、音を聞いてはどうか。①
- ・視覚障害者が聞いている具体的な音を流す。音響式信号、ホームの階段の鳥の声。都営三田線三田駅構内では「点字ブロックの上にモノを置かないで」と放送。⑥
- ・テレビのリモコンにも「ポチ」がある。⑥
- ・声かけは分かっているけどできない。授業で声

かけ体験できると良い。どういう事に困っていて声をかければ良いのか分かる。③

### ●防災時の対応

- ・視覚障害者の、防災時等の対応は？③
- 江東防災ラジオは視覚障害者は使えない。日頃の地域のつながりが大切。（全体）
- その人の支援情報を事前に入れて救助の人に伝える「安心缶」というものがある。冷蔵庫は地震等でも壊れることが少ないため冷蔵庫に入れている高齢者もいるようだ。（全体）

### ●その他

- ・エスコートゾーンが全国的にどれくらい展開されているのか知りたくなった。④
- ・交差点のイラストに、車を追加が必要か。⑥
- ・踏切はかなり深刻な問題。扱ってほしい。⑥
- ・女の子が「何か困っているかしら」と思っているが、実際どんな声のかけをするかを説明すると実践しやすい。⑥

## シーン3の感想と提案

### ●プログラムの順番

- ・講座冒頭にあってもいいかも知れない。②

### ●3 択の方法

- ・クイズ形式で、様々な立場の優先順位がわかりやすい。が、少し長いかも。⑥
- ・「エレベーター、エスカレーター、階段」の3つから選ぶ意味がわからなかった。「限りある資源をどう使うか」の意図ならわかる。②⑥
- ・「視覚障害者や聴覚障害者は一人ではエレベーターに乗らない」といった話や、「答がない」と言われてしまうと考えが広がってしまう。「ここしか使えない人がいる」のポイントを絞って伝えた方がいい。②
- ・車いす使用者はエレベーターだが、他の立場の場合は選択肢がある。エレベーターは基本車いす優先だと思う。④
- ・複数方法が選べるように挙手するなどが良い。一つ選べということに抵抗があった。⑥
- ・普通の人には階段を使うのが当たり前と思わせないようにする。圧力を感じた。⑥
- ・「エレベーター、エスカレーター」に意見を求められても困った。②

### ●状況で考える

- ・人それぞれ違いがあるので、具体的には違いを認めて自分で考えるしかない。⑥
- ・使うもの（エレベーター、エスカレーター、階段）が、体調によっても日々変化することがわかった。⑤
- ・エレベーター、エスカレーター、階段の話聞き、より周りの人を考えて行動したい。③
- ・エレベーターを使用することはなるべく避け、臨機応変その時の状況での行動が大切。④
- ・環境整備後の使い勝手のルールを知り守り、互いに譲り合い使うことが重要。③

### ●解説の内容

- ・駅全体の使い勝手を取り上げては。エレベーターのボタンの説明、エスカレーターの片側通行についても言うべき。⑥
- ・内部障害がある人の中には、スポーツ選手みたいな元気な人もいるし、上り階段は駄目だけど下り階段は大丈夫の場合もあり、内部障害＝階段の上り下りができないという印象を与えかねない解説には疑問。視覚障害車いす聴覚障害のお話に比べると、内部障害のところだけ薄いし、内部障害者がいないところでやるのに危機感を感じた。(全体)
- ・UD 出前講座を見て、障害者が災害時どのように対応しているか知りたくなった。④



ワークショップ風景